

令和元年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」実態調査業務委託報告書

福島県磐梯町大寺五区の活性化

「極そばプロジェクト」

2020年2月

駒沢女子大学エノモトスタジオ



目次

1：エノモトスタジオの紹介

2：「磐梯町」の歴史

3：大寺五区について

4：極そばプロジェクト～農地再生事業～

5：今年度の具体的な活動

6：今後の展開、流れ ～発展的な継続と他の耕作放棄地への対策を考える。～



1：エノモトスタジオの紹介

駒沢女子大学人文学部住空間デザイン学科エノモトスタジオ

私たちは、駒沢女子大学人文学部住空間デザイン学科3年エノモトスタジオに所属している。環境や自然に興味がある学生が多く在籍しており、普段は木を使って家具を始め生活に関する様々なアイテムのデザインや制作を行っている。

今回は指導教員である榎本教授と親交のあった福島県磐梯町の方の提案でこのような活動の機会をいただき、今回はこの活動内容に関心を持った6名がこの参加した。



2：「磐梯町」の歴史

- ・ 807年法相宗の僧徳一が「慧日寺」を建立。
平安時代には隆盛を極め、大寺地区は慧日寺の門前町であった。慧日寺の寺社群は1589年の伊達政宗の会津侵攻により焼失。
- ・ 江戸時代には会津藩領となり、会津若松（会津藩）と二本松（二本松藩）を結ぶ二本松街道・下街道の宿場町「大寺宿」として栄えた。
- ・ 大正以降、水力発電所や金属精錬工場（日曹金属化学）が建設され、昭和30年頃、町の人口は8千人近くいたが、発電所の無人化や工場の合理化により、人口は減少の一途をたどった。
- ・ 大寺五区地区は多くの旅籠や商家が軒を並べ、本陣（大名の宿泊所）が置かれていた大寺宿の中心部であったが、人口の減少と共に衰退し、今では数件の商店が残るばかりである。
- ・ 平成5年にアルツ磐梯スキー場がオープン。町内には(株)シグマ、日曹金属化学(株)の工場があり、大きな雇用を創出している。



(地図は磐梯町ふるさと納税パンフレットより)

表2 平成27年国勢調査における夜間人口。昼間人口

夜間人口	昼間人口	流出口	流入人口
3,579	4,512	919	1,852

※流出口は、磐梯町から他地域へ通勤通学している人口
 ※流入人口は、他地域から磐梯町へ通勤通学している人口

3：大寺五区について

かつて、町内には多くの青年団組織が存在し、地区行事や祭礼など様々な活動を行っていたが、人口の減少とともにその姿を消していった。

大寺五区青年会は、地域の若者のコミュニティの復活をめざし、昭和61年4月に発足し、旅行やキャンプ、歳の神など地区の行事を行っていた。

人口の減少と少子高齢化が進み、多くの地域が活力を失っていくなか、大寺五区青年会のメンバーも高齢化も進んでいるが、「自分たちの地域は自分たちで楽しくしよう！」という、自然発生的な活動方針により、様々な活動に取り組んでいる。

・大寺五区青年会：会員数 15 名（うち女性 3 名）

年齢層 32~62 歳（30 代 1 人、40 代 4 人、50 代 7 人、60 代 3 人）平均年齢 51.4 歳

表 1 人口の推移

時点	町の人口	大寺五区	
		人口	世帯数
S30年1月	7,845	394	85
S50年1月	4,906	281	72
H10年1月	4,385	187	60
H30年1月	3,529	146	60
R元年7月	3,460	137	53



・耕作放棄地について

大寺五区は世帯数に対する農業者が少なく、古い地図を見ると地区の中心である街道沿いは、商店が立ち並んでいることから、大寺五区はもともと農業より商工業が盛んな地区であったと思われる。作付けされていない農地は、所有者が草刈りを行い荒れないよう管理をしていたが、点在する小規模な農地は長年耕作もされず荒れた状態となっていた。



4：極そばプロジェクト～農地再生事業～

今回の活動「極そばプロジェクト」について説明する。

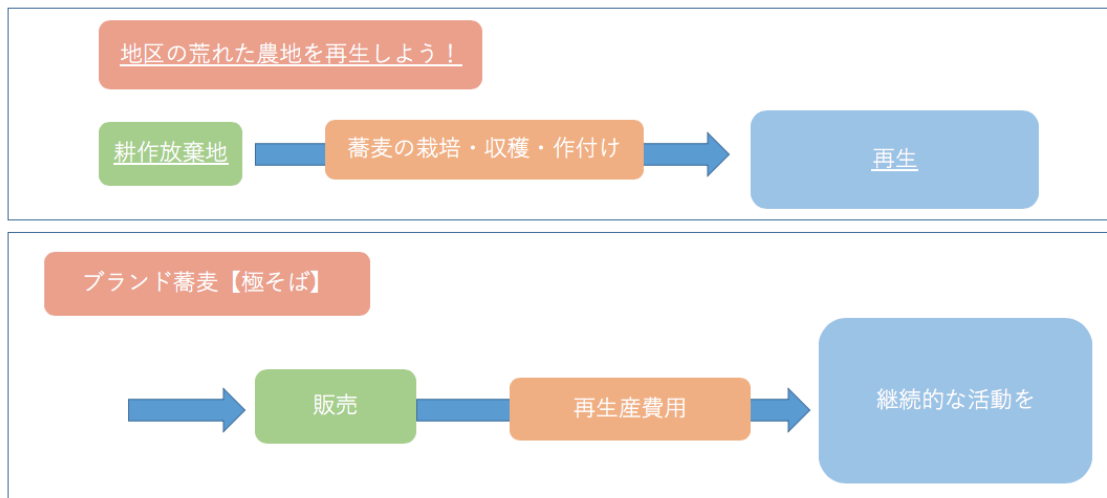
極そばプロジェクトは、近年町内に多く存在する耕作放棄地を利用し「地区の荒れた農地を再生しよう」という思いから始まった。

青年会会長が打った蕎麦が青年会のメンバーや地域の方々から好評だったことで、「自分たちでそばを栽培して、もっと美味しいおそばを食べよう」と考えた。

地域の方から無償で農地を借り受け、青年会で蕎麦を栽培・収穫し、そしてその種を使ってまた来年作付けするという窯業生産の循環と「大寺五区の蕎麦」のブランド化を目指し、「五区」と「極状のそばづくり」の極を掛け合わせて、「極そばプロジェクト」と命名された。

そのプロジェクトの実現のために、若い力、発想力を借りてできないかというお話をいただき、今回の合同プロジェクトが実現した。

今年収穫したそばは、現段階ではプロジェクトメンバーで食べることで終わってしまったが、来年度以降は、将収穫量を増やし、外部に販売することを目指し、再生産のための費用を生み出して継続性のあるものにしたいと考えている。



・極そばプロジェクトの対象農地

多く存在する地区内の耕作放棄地の中で、今回は大寺五区の3か所の耕作放棄地をお借りした。この3つのエリアは、場所が悪く面積も小さいため、大きな機械が使えないため手間が掛かるという理由や、所有者が高齢のため農作業ができなくなってしまったため耕作放棄地になっていた。



No.	地名	地目	面積
1	滝下 (たきした)	田	442㎡
2	鬼越 (おにごえ)	畑	210㎡
3	四十房 (しずぼう)	畑	1,943㎡
計			2,595㎡

5：今年度の具体的な活動

■種まき

1：滝下エリア

- ・まずは畑の雑草取り。
- ・その後、耕耘機を入れ耕し終わった土に混ざっている萱の根っこを取り除く作業。
- ・肥料とそばの種を蒔く。

▼最初の畑の状態



▼根っこを取り除く作業



▼肥料・種まき



▼周りの雑草を寄せ集める作業



▼蒔いた肥料と種



2：鬼越エリア

- ・まずは畑の雑草取り。
- ・その後、耕耘機を入れ耕し終わった土に混ざっている萱の根っこを取り除く作業。
鬼越エリアでは畑の草刈りも草刈機の操作を教わりながら自分たちで作業した。
- ・肥料とそばの種を蒔く。

▼最初の畑の状態



▼畑の周りの草刈り



▼肥料・種まき



▼耕した後の畑



▼草刈り機をそうしての作業



▼肥料・種まき



3：四十房エリア

- ・三箇所の畑の中でここが一番広く、ここは農協に委託して機械で草刈りと種蒔きを行った。



■刈り入れ

・滝下エリア

滝下エリアは明らかに生育不良であり、改めて環境の悪さを実感した。一部の茎が倒れてしまっていたため、ひとつひとつ手で実だけを採るという作業を行った。

生育不良の原因として、周囲を住宅に囲まれ風通しが悪く、またむかし水田として使われていたため両側にコンクリートの水路が流れていて非常に水はけが悪い、などが考えられる。

今後も畑として使用していくのであれば専門的な知識の元、改善が必要だと感じた。



・鬼越エリア

鬼越エリアは日当たりも土の状態もよく、しっかり育っていた。滝下と鬼越の2つの畑併せて約20kgほどのそばが収穫できた。



・四十房エリア

敷地が広く、スケジュールの問題もあり、種まきも刈り入れも農協に委託して機械で行った。
敷地の広さや土の状態が良かったため、一番多い113kgの収穫量だった。



■地域の人々との交流

今回の活動では、大寺五区の青年会にみなさんを始め磐梯町町長や役場の方々など多くの方々と交流し、またお世話になった。

▼懇親会



▼町長との面会



▼意見交換会



6：今後の展開、流れ ～発展的な継続と他の耕作放棄地への対策を考える。～

■活動規模の拡大：

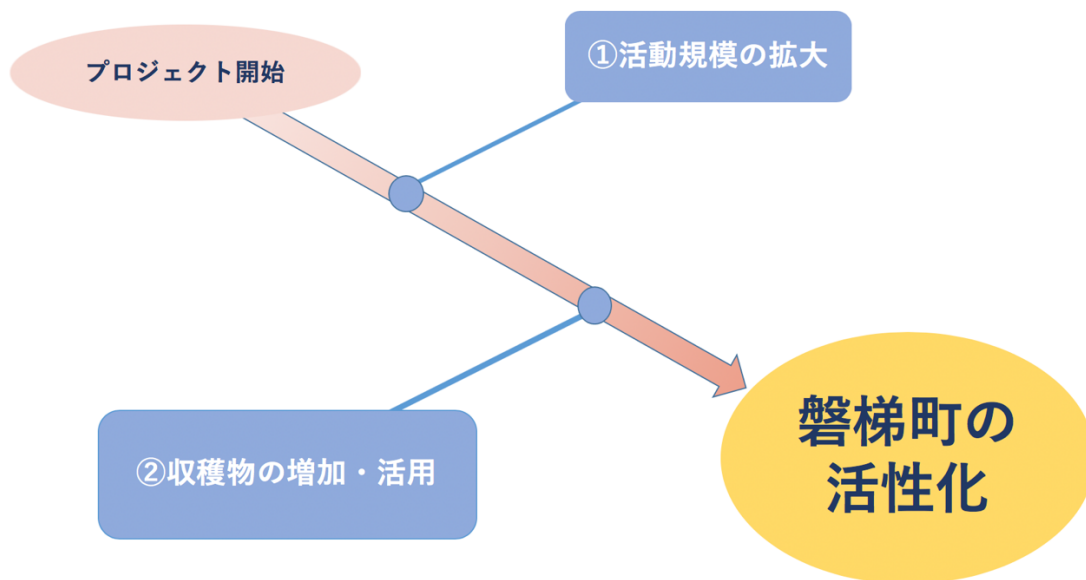
今後は下級生や他学科にも参加を募って、継続的かつより規模の大きな活動にしていきたい。

■収穫量の増加とその活用：

収穫量の増加については、環境条件の悪さが顕著に見られた滝下の土地をどう活用し収穫量を増やすかが今後の課題である。活用については、収穫したそばの商品化を視野に入れている。

■磐梯町の活性化：

大寺五区では地域の学校と連携した取り組み、また駒沢女子大学では他学科との連携による商品開発など、若者に関心を持ってもらえるような活動にしていきたい。そのために、耕作放棄地の再生を通じた磐梯町の活性化に繋がるように今後もこの活動を継続していきたい。



7：活動の感想

◎板橋清美

夏に種まき、秋に収穫を経て、今回育ててきたソバを自分たちで打ち、食べました。ソバを打つのは初めてで見様見真似で打ちましたが難しく、途中手伝っていただいたりもしましたが、楽しく作業できたので良かったです。自分たちが最初から携わって作った食べ物がこんなにも美味しいものなのかと感動しました。今回3か所の畑をお借りしてソバを育ててきましたが、土や日当たりなどが理由で育たなかった畑の今後を考え直し、他のものを育てるのか、土を改善するのか、使い方は色々あるので有効に使えるといいと思いました。

夏合宿の意見交換の際にソバを使って商品化の案が出ましたが、それらも進めていけるといいなと思いました。今年は3回合宿に参加しましたが、毎回磐梯町の方が暖かく迎えてくれ、楽しむことが出来ました。今回の報告会、ソバ打ちが今年最後の活動だと思うと寂しくなりました。また来年以降今年の反省点を改善し、継続して活動できれば良いと思いますし、私自身もできる限り参加していきたいと思いました。

◎酒井優衣奈

私はこの1年間の活動を通して、過疎地域の現状を目の当たりにし、身の引き締まる思いでこの問題と向き合ってきました。しかし、抱いた感情は負のものばかりではありませんでした。実際に大寺五区の皆さんと交流し活動していく中で、都会では感じることの少ない「人の温かさ」に触れる機会が多かったと感じます。地域活性の問題やそれに向けた課題を学ばせてもらったのは私たち学生側なのにも関わらず、磐梯町の皆さんは私たちのことをとても歓迎してくれました。そのことにより、私は「私たちの手で極そばプロジェクトを成功させて磐梯町を活気あふれる街にしたい」とより一層強く感じました。

今挙げた通り、私たちの活動のゴールは磐梯町の活性化です。その道筋の中に耕作放棄地の活用があるわけですが、現状はメンバー内の活動に留まってしまっています。今回報告会に参加し、2年目以降のグループの発表を聞いたときに町のイベントを成功させているグループや商品開発が進んでいるグループを多く見て、私たちも町内外の老若男女を巻き込んだ活動をしていくことが今後の課題だと改めて感じました。これを含め、磐梯町の活性化に向けたより多くの提案ができるように活動を進めていきたいと思います。

◎茅根汐里

今回の報告会を通して自信ができました。

報告会では、100人ほどの人の前で発表をしました。こんなにも大勢の人の前で発表したのは、初めての経験だったのですが、いつもの学校での発表のように「指定された時間内に発表を終える」「原稿やパワーポイントだけでなく、聞いている人たちの目を見て発表する」という二点を意識して発表しました。結果、この二点を成し遂げたと思うので、緊張する場面でもいつも通りにできるという自信ができました。また、ほかのグループや地域の方の声を聞いて、過疎化や少子高齢化などどの地域も共通の問題があり、この問題を解決するためにより活発な活動が必要であると痛感しました。

◎對木萌

夏から始まったプロジェクトが報告会という形でいったんまとまったことにホッとしています。とにかく初めての経験ばかりで、とても充実した期間を過ごせました。地域の方々の思いが強かった分、自分ではキャパオーバーなんじゃないかと何度も思いましたが、話し合いや実際に蕎麦を作ったりすることで少しずつですが自分でも出来ることがあるんだと思えるようになりました。動かないより動くことで何かのきっかけにつながるということを強く思い知らされました。本当にありがとうございました。

◎戸田満里奈

今回半年間かけてこのプロジェクトに参加して、地方の人不足の現状を知り、それを解決するため活動することができとてもよい経験になりました。今回の活動は初めての取り組みだったため、思った通りの結果でない事が多かったですが、何かを始めるといふ行動が起こせて、大きくなくとも良い一歩が踏み出せたと思います。継続する事が1番大切だと思うので来年も是非後輩を連れてこの活動に参加できればと思います。

◎西田菜乃波

最初は青年会の方々がどんな人たちなのかわからなかったのと、知らない土地での活動だったので不安でした。実際行ってみたら青年会の方々は、とても優しく楽しく活動できました。今回のプロジェクトは、私たち学生が頑張らなきゃいけない活動だと思っていたのに、たくさん色々なことを教えてくださり、おもてなししてもらって、これでよかったんだろうかって思うこともありました。しかし、その中で大寺五区や磐梯町の良さをたくさん知ることができて、来るまで全く知らなかった場所と人のことが好きになりました。ソバは、あまり育たなかった土地もありましたが、無事収穫できて、みんなで食べるということまでできて良かったです。この活動が、顔も知らない後輩まで続いて行って、より良くなり、もっと大きな活動ができるようになるといいなと思いました。

今回このプロジェクトに参加することができて良かったです。

